

🍄 **きのこ観察会** 🍄



お子さん20名、大人19名、総勢39名の参加者が集まりました。



講師の大作晃一先生。



会員のKさん出題の、きのこのクイズ。散策前に、キノコの予備知識を付けました。



園路に出発です。前日までの雨で、しっとりとした足元に目を落としながらきのこを探しました。



見つけたきのこは、参加者みんなで観察できるよう、先生に種名を書いた付箋をつけて頂きました。



写真を撮ったり、きのこの名前をメモしたり、熱心に観察をする参加者の姿がみられました。



普段は入れない林内に、自由にきのこを探せるゾーンを設けました。皆さん、夢中になって探します。



コテングタケモドキ。



きのこは、同定に必要な特徴が残るように、根本の部分から丁寧に採取します。



中学生が見つけた、立派なホオベニシロアシゲチ。

きのこ観察会



イッポンシメジの仲間。



エリマキツチグリ。成長すると真ん中に開いた頂孔から胞子が噴出する。



一晩でニョッキと生えたササクレヒトヨタケ、上手に採れるかな？



みんなで採集した沢山のきのこがテーブルを埋め尽くしました。



先生の指導を受けながら、きのこを種類別に集めてみます。



傘の中央に突起(イボ)ができる黄色いきのこ、だから、キイボカサタケ。



美しいベニタケの仲間。



誰が名付けたか、キツネノタ イマツ。



可愛いハナオチバタケ。



ヒトヨタケ。



匂いを嗅いだり、触ってみたり、大人も子どももきのこの世界にどっぷり浸かった2時間でした。



最後に、みんなで記念撮影をして解散となりました。

**きのこ観察会****2019年度きのこ観察会 きのこ一覧**

目	科	和名
1 ハラタケ目	ハラタケ科	ホコリタケ
2 ハラタケ目	ハラタケ科	ノウタケ
3 ハラタケ目	ハラタケ科	ナカグロモリノカサ
4 ハラタケ目	キシメジ科	ヒメキシメジ
5 ハラタケ目	キシメジ科	カヤタケの仲間
6 ハラタケ目	ツキヨタケ科	ヒノキオチバタケ
7 ハラタケ目	ツキヨタケ科	モリノカレバタケ
8 ハラタケ目	ガマノホタケ科	ヒメカバイロタケ
9 ハラタケ目	タマバリタケ科	ツエタケ
10 ハラタケ目	タマバリタケ科	ダイダイガサ
11 ハラタケ目	タマバリタケ科	エノキタケ
12 ハラタケ目	タマバリタケ科	スギエダタケ
13 ハラタケ目	ホウライタケ科	オオホウライタケの仲間
14 ハラタケ目	ホウライタケ科	ハナオチバタケ
15 ハラタケ目	ラッシタケ科	サクラタケ
16 ハラタケ目	テングタケ科	シロウロコツルタケ
17 ハラタケ目	テングタケ科	コテングタケモドキ
18 ハラタケ目	テングタケ科	ドクツルタケ
19 ハラタケ目	テングタケ科	テングタケダマシ
20 ハラタケ目	テングタケ科	コトヒラシロテングタケ
21 ハラタケ目	テングタケ科	クロタマゴテングタケ
22 ハラタケ目	ウラベニガサ科	ベニヒダタケ
23 ハラタケ目	ナヨタケ科	ヒトヨタケ
24 ハラタケ目	ナヨタケ科	ササクレヒトヨタケ
25 ハラタケ目	アセタケ科	アセタケの仲間
26 ハラタケ目	アセタケ科	シロニセトマヤタケ
27 ハラタケ目	イッポンシメジ科	イッポンシメジの仲間
28 ハラタケ目	イッポンシメジ科	キイボカサタケ
29 ベニタケ目	ベニタケ科	チョウジチタケ
30 イグチ目	イグチ科	ホオベニシロアシグチ
31 イグチ目	イチョウタケ科	キシワタケ
32 ベニタケ目	ベニタケ科	ベニタケの仲間
33 ベニタケ目	ベニタケ科	クロハツ
34 ベニタケ目	ウロコタケ科	ウロコタケの仲間
35 ベニタケ目	ベニタケ科	ヌメリハツ
36 タマチョレイタケ目	タマチョレイタケ科	カワラタケ
37 タマチョレイタケ目	タマチョレイタケ科	チャカイガラタケ
38 タマチョレイタケ目	タマチョレイタケ科	シカタケ
39 タマチョレイタケ目	ツガサルノコシカケ科	アオゾメタケ
40 タマチョレイタケ目	タマチョレイタケ科	アシグロタケ
41 タマチョレイタケ目	所属科未確定	アケボノオシロイタケ
42 スッポンタケ目	スッポンタケ科	キツネノタイマツ
43 ヒメツチグリ目	ヒメツチグリ科	エリマキツチグリ
44 キクラゲ目	キクラゲ科	アラゲキクラゲ
45 ビョウタケ目	キンカクキン科	ドングリキンカクキン
46 チャワンタケ目	チャワンタケ科	オオゴムタケ

※色付きセルは2019年初記録

※「～の仲間」という表現は属レベル以降の区別が困難な場合に用いた



ホコリタケ(幼菌)



ノウタケ



エノキタケ



テングタケダマシ



オオゴムタケ

今年の10月は過去10年間で平均気温が一番高かったとのこと(※気象庁データより、千葉県我孫子観測 気温18.3℃)。気温や降雨の影響なのか、今年のきのこはいつもと様子が違う感じがしました。10月上旬まではこんぶくろ池もきのこ発生が少なく慌てましたが、12日に台風19号が関東付近を通過し大量の降雨があり、この雨がきっかけで次々ときのこが姿を現しました。いままでずっと我慢していたのか、いつもなら比較的暑い時期に発生するテングタケ科のきのこが当日に多く見られました。反対にエノキタケのような少し寒い時期のきのこも発生して、今年の調査では数多くの種類を記録することができました。

今年は2001年から記録を継続しているきのこ調査がちょうど20回目を数える年でした。最近では遺伝子解析による系統識別が進み所属科が変更になることもしばしばで、報告書を作成する際には再度調べなおしたりと苦労します。とはいえ、解析が進んだことで進化の過程なども解明されつつあり、何年かわかっててもきのこは興味深く飽きないなあ、と思ってしまう。今後、こんぶくろ池のきのこはどのように変化していくのでしょうか？地下水位や森の環境の変化、温暖化などが影響を及ぼすのでしょうか？これからもずっと皆さんと見守ってまいります。

(M. K.)